

質の高いサービス

行政院吳敦義院長と南科進出企業の座談会

行政院院長の吳敦義は3月11日、初めてとなる南科視察に訪れ、入居企業との座談会に参加し、「政府挺企業、企業挺員工(政府が企業を支え、企業が従業員を支える)」政策の具体化のための意見聴取を行いました。座談会の席では、対中国貿易における輸出・輸入ルールの公平化、世界市場でのブランド戦略、園区と外部の交通アクセス、台湾製品の積極採用、輸入代替化の促進などについて多数の質問や提案が企業側から寄せられ、院長からは関係省庁に検討させ適切に対処すると返答がありました。

院長からはさらに、景気が回復しつつある科学園区に必要な人材を確保できるよう、政府の方でも就職博覧会を開くなどして入居企業を支援していくこと、また、積極的に新しい産業の集積を図るとともに研究開発と人材育成を推進し、国内産業の業態転換や技術発展に結び付けてほしいとの期待が表明されました。

高雄園区汚水処理場検査室が全国認証基金会のTMAH認証を取得

実施する水質検査業務プロセスの公的信用度を高めるとともに、入居企業の権利を保障するため、高雄園区汚水処理場検査室は2010年2月24日、財団法人全国認証基金会(TAF)による評定をクリアし、7項目の水質環境検査測定合格証書を取得しました。うち、水酸化テトラメチルアンモニウム(TMAH)分析については、国内初の認証取得となりました。こうすることで、入居企業に汚水・廃水の水質を把握してもらえるようになっただけでなく、園区の料金体系や作業プロセスに公的なお墨付きを得ることができました。

商工財務・税務シリーズ講座

財務・税務法令に関する情報の提供、園区の財務スタッフの専門能力引き上げを目的として、3月、7月、9月、11月、12月に商工財務・税務をテーマとした講座を計9回にわたって開講しました。南区国税局や經濟部工業局の職員、そして資誠聯合会計師事務所の会計士を講師として招いて行った営利所得税及び營業税改正法令と申告実務、営利所得税の移転価格制度、産業創新(イノベーション)条例、研究開発費投資税額控除措置法、兩岸税制改革の影響と対応策などの講座には、園区に勤める600人あまりの財務スタッフが参加し、熱心に聞き入りました。

院長與南科廠商座



行政院院長の吳敦義が入居企業との座談会に臨む(2010.3.11)



座談会に参加した入居企業の代表者たち(2010.3.11)



2010年度商工財務・税務シリーズ講座に参加した各企業の財務担当者たち(2010.11.18)



▼多数の来賓を迎えて行われた「就業徵才博覽會」開幕式(2010.3.27)



▼「企業合同徵才活動」参加企業に声をかける吳敦義・行政院院長(2010.8.21)

就職・求人イベントの開催と優良労働者に対する表彰式

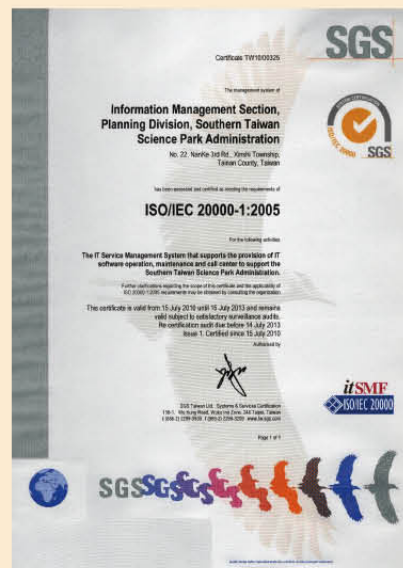
就職希望者に絶好の就業機会を提供すべく、南科管理局は2010年に2度の就職博覽会を開催しました。3月27日の「2010年南科就業徵才博覽会」では、園區内外の企業48社が4500名の求人を行いました。当日はのべ1万人以上の就職希望者がつめかけ、行政院の吳敦義院長が来場者のために激励の挨拶をするなど、会場は熱気に包まれました。また、優れた成果を挙げた労働者に対する「2010年園區優良労働者表彰式」も並行して行われ、吳敦義院長と来場する来賓によって優良労働者に表彰状が授与されました。なお、この博覽会を通じて募集が行われた求人枠は7月末までに100%充足されました。そして、今年2度目の就職・求人イベントとなる「2010南科企業合同徵才活動」が8月21日、再び吳敦義院長の出席の下に行われました。当日は47社の入居企業が9000名あまりの求人を行い、来場者は1万人を超えました。

2010南科温室効果ガス削減戦略・管理実務シリーズ講座

入居企業に温室効果ガス管理に関する最新情報を提供して各社の環境面での競争力アップを図るため、温室効果ガス削減関連法令を策定した環保署の幹部や専門家を講師に招いた「南科温室効果ガス削減戦略・管理実務」シリーズの5講座が6月3日と6月11日の2日間にわたって開講されました。国内外の温室効果ガス削減関連措置とその進行状況について詳細かつ分かりやすい分析が示され、入居企業の大きな反響を呼びました。

南科の情報サービスがISO 20000認証を取得

ISO 20000は情報サービスマネジメントの国際規格で、一般管理業務プロセスにPDCAアプローチを導入して情報サービスの継続的な改善を達成しようというものです。南科管理局の情報サービスは7月15日に英国UKAS ISO 20000の認証を取得しました。これはインシデントマネジメント、問題マネジメント、変更マネジメント、リリースマネジメント、構成マネジメント、サービスレベルマネジメント、サービスの継続性・可用性マネジメント、キャパシティマネジメント等から成り、認証取得の方針策定から推進体制の確立、書類準備、適用範囲の決定などのプロセスを一つ一つ踏んで南科管理局の情報サービスマネジメントシステムが構築されました。



▼南科管理局の情報サービスがISO 20000認証を取得

傑出企業人による対談講座

2010年の「傑出企業人による対談講座」は、8月31日と11月30日に行われました。第1回講座は琉球奥圖碼(オプトマ)科技会社のアジア地区総経理を務める郭特利氏による「オプトマ・ブランド革新の秘密」、第2回は南僑関係企業会の陳飛龍会長による「サービス本位の製造業一リスク回避の経営モデル」で、計345人が来場しました。このほか、先端技術に関する特別講座も2回行われ、以上計4回の講座の来場者数はのべ598人に上りました。

「台湾産業に対する两岸経済協力枠組み協定(ECFA)の影響とその対策」講演

两岸経済発展の動向に関する最新情報を提供するため、南科管理局は9月13日に「台湾産業に対するECFAの影響とその対策」と題したシンポジウムを開催しました。このシンポジウムには經濟部工業局の杜紫軍局長も招かれて演台に立ち、南科の重要産業であるパネルガラスやリチウム電池がECFAの関税撤廃リストに挙げられていることに言及し、パネルガラスメーカー各社は韓国、日本との競争で優位に立つ台湾への投資を拡大するであろうとの見通しを示しました。このシンポジウムに対する反響はかなりのもので、60社近くの入居企業から聴講者が集まりました。会場では活発な質疑応答が展開されて幅広い意見交換が行われたほか、園区が必要とする輸入物資と園区から輸出する製品をECFAの優遇関税リストに入れてもらうための絶好のアピールの場ともなりました。



▼「傑出企業人による対談講座」陳飛龍氏(中央)と来場者が交流を図る(2010.11.30)



▼經濟部工業局の杜紫軍局長による講演(2010.9.13)



▼台南園區の洪水調節池が洪水防止機能を発揮

水害防止システムが南科を守る

9月19日の台風「ファナピ」、10月21日の台風「メーギ」と立て続けに2つの台風が台湾を直撃しましたが、南科管理局の水害防止監視・災害対策システムが的確に機能し、入居企業も近隣住民も安心して過ごすことができました。

2010優良企業(AEO)の経験・成果発表会

行政院経済建設委員会(経建会)の「優良貿易ネットワーク計画」に従い、入居企業の輸出入通関の迅速化と国際取引ネットワーク参入の円滑化を目指し、南科では2009年から「財団法人成功大学研究発展基金会」に委託して入居企業のAEO認証取得を支援しています。今年度の「優良企業(AEO)の経験・成果発表会」は10月13日に行われ、税関当局の優良企業(AEO)認定プロセスについて財政部

高雄関税局による説明があったほか、台湾神隆会社によるAEO導入過程と認証取得の経験が披露されました。2009-2010年の期間に財政部関税総局に優良企業(AEO)認定された企業は累計で14社、南科ではすでに5社、2011年末までに計10社が認証を取得する見込みです。

企業オンライン電子公文システムに「公文進度追跡」機能を追加

10月13日から南科管理局の電子公文システムに「公文進度追跡」機能が追加されました。南科管理局の「収文窓口」宛に「掛号(書留)」扱いで送付された申請書類や一般公文は、入居企業であって社内の情報管理者が発行したIDがあれば随時インターネット上で公文の処理状況を確認することができ、利便性が大幅にアップしました。



▼台湾神隆会社物料処倉儲主任の曾智聖氏がAEO取得の経験を披露(2010.10.13)



▼馬英九総統が「金融危機後の科学園区における産業発展」座談会に臨む(2010.11.14)

分支単位連繫協調会

2010年にビジネスサービス業の参入が拡大したことを受け、南科管理局は11月9日に「分支単位連繫協調会」を開きました。これは、行政部門や科学園区同業者組合代表、ビジネスサービス業の南科支部、南科支社による意見交換の場を設けて業務上の連携やコミュニケーションを緊密にすることで、入居企業が行政部門とビジネスサービス業のサポートを得ながら本業に全力投球できるような環境を整備することを目指したものです。出席者から寄せられた10項目の提案については南科管理局が追跡調査を行い、関係機関と協力しながら速やかな解決を図り、行政力の高さを示すことができました。

「金融危機後の科学園区における産業発展」座談会

企業の本音を聞きたいと、国科会は11月14日に南科管理局の行政大樓で「金融危機後の科学園区における産業発展」座談会を開催。会場には各企業の代表200人あまりが詰め掛けました。国科会の李羅權主任委員と園区同業組合の謝其嘉理事長が開幕の音頭を取って始まった座談会では、企業との間で活発な意見交換が行われました。座談会には馬総統も来場し、科学園区に進出している各企業の台湾経済への貢献の大きさを高く評価しました。馬総統はまた、国科会と各園区の管理局が協力して常に新しい理念で産業の発展を促し、雇用創出、イノベーション、省エネ・CO₂削減、地域経済統合という4大目標の実現と経済成長が両立する黄金の10年を切り拓いていくことに期待を寄せました。

環工センターと資源再生センターがカーボンフットプリント算定証書を取得

気候変動をめぐる世界の動きに対応し、省エネ・CO₂削減の国家政策を推進するため、台南園区の環工センターと資源再生センターは2010年、それぞれ汚水処理システムの運転と廃棄物処理サービスの過程で排出されるCO₂量の調査を進めました。調査では2008国際算定基準PAS2050に従ってライフサイクル・アセスメントによるCO₂排出量の算出を行い、11月23日に国際的な外部検査機関であるSGS社のカーボンフットプリント認証を得ました。このカーボンフットプリント算定証書によって推進している省エネ・CO₂削減の方法と成果を南科管理局自身が実際の行動で示すことができただけでなく、入居企業が製品のカーボンフットプリント認証を申請する際の一次データとしても利用が可能です。南科では、入居企業とそのサプライチェーンにもカーボンフットプリント管理の輪を広げることでCO₂低排出の科学園区を創り上げていくことを目指しています。

下水汚泥リサイクル製品を利用したモデル歩道を設置

園区の「ゼロ・エミッション」構想推進のため、南科管理局は環工センター汚泥リサイクル軽量建材推進計画を試行しています。これは、園区の下水汚泥をCNS規格の歩道用タイルとして再生しようという試みで、2010年12月末に汚泥リサイクル製品を利用したモデル歩道が完成しました。